

日清製粉グループ 連結決算、次期連結業績予想

当期は売上高4,241億56百万円、経常利益278億39百万円。

[平成23年3月期連結決算]

3月11日に発生した東日本大震災は、広域にわたり甚大な被害をもたらしました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。当社グループにおきましては、一部工場等において生産設備、棚卸資産等が損傷いたしましたが、短期間で復旧いたしました。今後も安定した製品供給に努めてまいります。

(株)日清製粉グループ本社(社長 大枝 宏之)の平成23年3月期につきましては、政府の景気対策効果や企業収益の改善傾向を受け個人消費に一部回復の傾向が見られたものの、食品業界は、デフレの影響を受け厳しい市場環境が継続しました。そのような環境下、当社グループは、主力事業の食品事業において当社技術を活かした付加価値のある新製品を開発・販売し、効果的に広告宣伝活動を実施するなど、各事業において売上げ拡大施策を推進するとともに、一方では、各種コスト削減施策に取り組みました。そのような中、昨年4月及び10月に輸入小麦の政府売渡価格が改定されたことに伴い、製品価格改定を実施いたしました。

また、当社は、連結子会社であるオリエンタル酵母工業(株)及び(株)NBCメッシュテックにつきまして、当社グループ全体として効率的かつ最適なグループ経営を実践し、長期的な企業価値の更なる向上を図るため、当社の100%子会社としました。

この結果、当期の業績は製粉事業及び食品事業において出荷伸長はあったものの、輸入小麦の政府売渡価格引き下げによる製品価格改定の影響もあり、売上高は4,241億56百万円(前期比95.6%)となり、利益面では、ふすま価格の低迷及び拡販施策費用等の投入があり、営業利益253億35百万円(前期比95.3%)、経常利益278億39百万円(前期比94.9%)、当期純利益141億87百万円(前期比84.3%)となりました。

なお、本年1月に、製粉事業において、最適な立地への生産集約による生産性向上を実現するため、福岡市中央区の須崎埠頭に平成26年春に新工場を建設し、同時に鳥栖、筑後の両工場を閉鎖することを決定いたしました。

[平成24年3月期通期連結業績予想]

わが国経済は、引き続き東日本大震災の深刻な影響を受けるものと考えられ、夏場の電力不足、原材料の調達難等多くの課題に取り組む必要があります。また、厳しい雇用情勢及び消費者の低価格志向は継続するものと予想され、当社グループを取巻く環境も不透明な状況が継続するものと思われまます。このような環境におきましても、国民の主要食糧である小麦粉等の安定供給を確保し、各事業において安全な製品を供給するという使命を果たしてまいります。また、国内におけるシェアアップ等事業基盤強化のために必要な施策を積極的に推進してまいります。なお、輸入小麦の政府売渡価格が本年4月に5銘柄平均で18%引き上げられたことを受け、コストに見合った適切な価格改定を行う予定です。また、当社グループの更なる成長を実現するため、海外事業展開のスピードアップを図ってまいります。

以上の結果、平成24年3月期の連結業績予想につきましては、現時点で見込まれる東日本大震災の影響も勘案し、売上高は4,474億円(前期比105.5%)、営業利益は246億円(前期比97.1%)、経常利益は270億円(前期比97.0%)、当期純利益は151億円(前期比106.4%)としております。